



報知旗・アシックス杯争奪  
第9回日本少年野球 関西キッズドリーム大会

## 大会規定

1. チームの登録選手は11名以上、25名以内とする。
2. 出場選手は連盟登録済のものに限る。
3. 審査証は令和2年度発行のものとする。
4. 登録選手及び登録された責任者(代表または、それに代わる責任あるもので、チーム責任者証を携帯しているもの)・監督・コーチ・マネージャーのみベンチに入ることができる。  
【本大会においてのみ、責任者証が複数必要な場合はその写しを携帯することも可とする】
5. 組合せの若番号が1塁側のベンチ、後番号が3塁側のベンチに入る。  
但し、チーム責任者・監督・コーチは登録証を携帯すること。
6. 監督(背番号60)・コーチ(背番号50)は選手と同じユニフォームを着用する。  
【本大会で合同チームを結成した場合のみ、異ユニフォームも可とする。また、合同を結成した各チームから必ず一人は、指導者としてベンチに入ること。】
7. 試合開始時間60分前に試合場に到着し、直ちにオーダー表5部を大会本部に提出しなければならない。
8. 所定の審査を受けたのち両キャプテンにより、決勝トーナメントは先攻・後攻をジャンケンで決める。(予選リーグ戦は対戦表のと通りの先攻、後攻とする)
9. 試合開始までにチームがグラウンドに現れないとき、球審は没収試合を宣言することができる。
10. 試合方式など  
今大会は、塁間を21, 86m・バッテリ間を14, 367mとして試合を行う。  
予選、4グループ各チーム2試合を行い、各グループの1位チーム(勝ち点方式)の計4チームが決勝トーナメント戦に進み試合を行う。  
①各試合は5回戦で行い、3回終了時を持って正式試合とする。  
②試合成立後は開始から1時間20分を超えた場合、新しいイニングに入らない。  
また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、両チームが完了した均等回の総得点で勝敗を決する。  
試合成立前に上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。  
降雨などの規定・サスペンデッドゲームの規定は連盟規定に準じる。  
3回終了時以降12点差、4回終了時以降7点差の場合はコールドゲームとする。  
③1イニングに12点を取った時点でアウトカウントに関係なく、攻守交代とする。  
④予選リーグは、5回終了後、同点の場合は引き分けとする。  
◎順位決定方式  
勝ちチーム2点・負けチーム0点・引き分けは、両チームに1点





◎勝ち点が同点の場合

i、得失点差の大きい方が上位 ii、総失点数の少ない方が上位 iii、直接対決で勝利した方が上位 iv、再試合にて決める

⑤決戦トーナメントの場合は延長戦に入るが、延長6回(決勝戦は7回)あるいは試合開始から1時間20分を超えては(どちらか早い方)新しいイニングに入らず、タイブレーク方式を実施する。

【競技に関する特別規則「タイブレーク実施規則」参照】

11. (1) 投手は同一日に4回を超えて投球することができない。  
(2) ダブルヘッダーでの連投は認めるが、投球回数は4回以内とする。例えば、1試合目で3回投げた場合には、次の試合で1回投げることができる。但し、端数回数(0/3回・1/3回・2/3回)は切り上げて1回とする。
12. 攻守で監督及びコーチの指示、伝達は1試合で各2回の計4回を限度とする。延長に入った場合は、1回の指示、伝達を認める。(選手の怪我や交代などは回数をカウントしない。)守備側の投手に対する指示、伝達が3回目となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない。  
内野手が投手のところに行くタイムは禁止。また、指示、伝達は審判がタイムを宣告してから「30秒以内」とする。
13. 監督・コーチ及び選手は、審判のジャッジに対して、絶対に服従し、抗議することを厳禁する。ただし、規則上の疑義申し出については、監督または問題の当事者のみが、審判に説明を求められることができる。この場合「3分以内」に規制する。
14. 監督・コーチが選手にアドバイスするときは、ピッチャーマウンドのところで行うこと。
15. 2塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
16. ボール回しをするときは一回りとし、最終野手は、その定位置から返球する。また、打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。
17. 投手は走者をアウトにする意志がないのに、無用の牽制球を繰り返したり、送球する真似を何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。  
【今大会で基本的にはボークを取らないが、あまりにもひどい時は、審判員が注意をして指導する。この間にランナーなどがアウトになった場合はそれを無効とする。】この件に関しての抗議などは認めない。
18. ヘルメットは1チーム7個同色で安全なものを備える。但し合同チームは別。
19. ユニフォーム、バット、ボール、スパイク、グラブ等は連盟指定業者のものに限定。
20. 捕手は、必ずヘルメット並びに規定防具を試合および練習を問わず着用すること。
21. グランドの都合で大会トーナメント規定が別に制定された場合は、それに従うこと。
22. ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。
23. 光化学スモッグ発生の場合、試合及び選手に対する処置は別に定め、運営委員の指示に従う。





## 【タイブレイク実施細則】

### (1) 延長回に関する特別規則

- (イ) 決勝トーナメントは延長6回(決勝戦は7回)、あるいは1時間20分を超えて(いずれか早い方)、両チームの得点が等しいとき以降の回の攻撃は一死走者満塁の状態から行うものとする。
- (ロ) 打者は前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。
- (ハ) この場合の走者は前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。
- (ニ) この場合の代打および代走は認められる。

### (2) チームおよび個人記録

#### (イ) 投手成績

- ・ 規程により出塁した3走者は、投手の自責点とはしない。
- ・ 完全試合は認めない。
- ・ 無安打、無得点試合は認める。

#### (ロ) 打撃成績

- ・ 規程により出塁した3走者の出塁の記録はないものとする。ただし、盗塁、盗塁刺、得点、残塁などは記録する。
- ・ 規程により出塁した3走者を絡めた打点、併殺打などは全て記録する。

以上

野球用具は、全て連盟指定業者のものを使用することが義務付けられています

